

みんなのゆめが丘 (50分×2コマ+α)

ねらい

(多文化共生的な課題解決)

日本の地域社会でも様々な国の出身者がともに生活しているのが現状である。日本人とは異なる文化的背景を持つ人々とどのように接していけばよいのか。地域社会において住民として共に生活していくためには、どうしたらよいのか？生活上の具体的なケースを通して多文化共生的な課題解決とコミュニティづくり、コミュニケーションのとり方について考える。

準備

○シート1「事情解説シート」、シート2「ムユコさんへのインタビュー」、シート3「日本人住民の発言について考えてみよう」、シート4「ゆめが丘自治会・10の解決案」、シート5「ふりかえりシート」をそれぞれ参加者数分。

○シート6「解決案カード」は10枚に切り分けてグループ数分。

印刷はプロパティ→各種機能→印刷の向き＝縦、用紙あたりページ数＝4、ページ境界線＝有
○4～5人のグループ分け。(1コマ目、3コマ目はグループ活動でなくてもよい)

進め方

1コマ目

①《全体：10分》

在日外国人が増加している状況をクイズ形式で簡単に学ぶ。(以下は例)

Q1：全国の外国人登録者数は何人に一人くらい？(総人口は1億2769万人)

ア. 10人 イ. 60人 ウ. 100人

→A1：イ

*2007年12月の外国人登録者数は215万2973人、総人口は1億2769万人、割合は1.68%

*未登録の「不法残留者」の数が11万3072人(2009年1月)とされている

*神奈川県2008年12月の外国人登録者数は17万4352人、総人口は900万人、割合は1.94%。だいたい50人に一人の計算で国の水準より高い。

Q2：20年前＝1989年(平成元年)と比較すると？

ア. 8割に減った イ. 増えたがあまり変わらない ウ. 2倍以上に増えた

→A2：ウ

*1989(平成元)年は98万4455人で2.19倍になっている

Q3：人数の多い国籍ベスト3は？(国名をあげてもらう)

→A3：①中国(28.2%) ②韓国朝鮮(27.6%) ③ブラジル(14.0%)の順(2007年末)

*4位はフィリピンで9.4%

*神奈川県の順位は、1位～中国(30.1%)、2位～韓国朝鮮(20.1%)、3位～フィリピン(11.0%)、4位～ブラジル(8%)である。

Q4：全国の外国人登録者の国籍の総数は？(国連加盟国数は192)

ア. 100 イ. 150 ウ. 190

→A4：ウ

(法務省・入国管理局、各都道府県等のHPでデータ入手可能)

②《全体：5分》

- ・シート1「事情解説シート」を参加者に配布して読み上げ、状況設定を確認する。自分自身が自治会役員だったらどう対応するかを考えてもらい、何人かに聞く。

③《各自→全体：20分》

- ・シート2「ムユコさんへのインタビュー」、シート3「日本人住民の発言について考えてみよう」を配布し、シート2を参考にして、各自にシート3の記入をしてもらう。
- ・記入後、数人の意見を聞き出しながら、参考等の情報を元に問題の背景となる事情を確認する。

進め方

④《各自：10分》

- ・ シート4「10の解決案」を配布し、各自で対策のトップ3を考え、その結果をシート右下の〈メモ欄〉に記入してもらう。

2コマ目

①《グループ：15分》

- ・ 各自が記入したシート4の結果をグループ内で話し合い、グループとしてのランキングを完成させてもらう。シート6を切り分けた「対策案カード」を各グループに1組ずつ配布し、話し合いの際に使ってもらう。
- ・ グループの発表者を決めておくよう呼びかける。

②《全体：10分》

- ・ グループ作業がほぼ完成した頃に、上位2段目までのランキング結果の発表にうつる。そのような結果になった理由も簡単に付け加えてもらう。

③《各自→全体：20分》

- ・ シート5「ふりかえりシート」を記入してもらう。
- ・ 「ふりかえりシート」の質問事項ごとに1～2名の参加者に発表してもらう。
 - ― 問題解決にあたっての参加者の考え方の傾向や相違点を明らかにする（①）
 - ― 共生の観点から、根本的な解決策とはならない（さけない）選択肢をあげる（②）
 - ― 逆に、選択肢にないがもっと優先したい解決策を出し合う（③）
 - ― 現実問題として直面した時の自らの姿勢について想像してみる（④）

3～4コマ目

①《全体：45分》

- ・ 可能であれば、学校のある地域（ワークショップを実践する地域）に住む外国人や、そこで多文化共生や外国人支援の活動に実際に取り組んでいる人の話を実際に聞いてみたい。その上で、ゲストも交えて次のような学習内容に取り組むことが考えられる。その際、学習や議論を具体的にするために、地域の現状を素材として取り組むとよい。
- ― もう一度ランキングをしてみる。
- ― 解決策のブレインストーミングをし、その中から今すぐ取り組むべきベスト3を選ぶ。
- ― 自治体の「外国人住民会議」（名称はそれぞれ）の記録を参考に、解決策を考える。
- ― 自治体の外国人施策のよい点、悪い点について話し合う。
- ― 日本人も外国人も暮らしやすいまちづくりのポイントを考える。

メモ

①《教材の使用について》

- ・ この教材では、部分的な情報によって誤解や偏見を固定したり、助長することがないように、特定の名称を避けて場面設定をしているが、ブラジル人等をはじめとした外国人の集住化が進んでいる地域の実例を参考にしている。議論や理解を深めるためには、具体的事例を紹介して実際に起こっている問題であることを認識してもらうほうが効果的であるので、参考などを読んで進めてほしい。
- ・ 生きた社会を学ぶという点からもっとも大切なことは、十分な学習の上で、外国人住民の声を直接聞くことである。教材は2コマだが、ぜひ3～4コマ目に取り組んでほしい。「ふりかえりシート」の質問4は実際の場面に向き合うかを問うものだが、当然ながら不十分である。「仮想体験」というこの教材の限界を理解した上で使用していただきたい。
- ・ なお、偏見や先入観が引き起こす問題についての学習も必要だが、この教材の目的とは異なるので別の教材で取り組んでいただきたい。

②《日本人住民の発言をドンゴロ人住民の立場から見る》

- ・ シート3「日本人住民の発言について考えてみよう」は、ランキングの議論の展開を左右する大切な過程である。参加者の記述や発言がドンゴロ人の立場をまるで意識していない場合

メモ

には、「『ムコヨさんへのインタビュー』をもう一度読んでみよう」などと問いかけて気持ちを促してほしい。

- ・また、外国人への苦情の内容が実は日本人にもあてはまるという例はよくある。

③ 《解決案のランキング》

- ・「10の解決案」の中には、内容があいまいなもの、具体的でないもの、個人でできること、行政や組織に働きかけないとできないもの、共生という観点からは適切でないと思われるものなどが混在しているが、議論を引き出すための仕掛けである。あえて、ベストの選択肢とはしていないのである。
- ・ランキング〈順位付け〉ではピラミッド型を取り上げている。時間を短縮するためには、上位3枚だけを選ぶようにするとよい。逆に時間があれば、選択肢を9つに絞って、ダイヤモンド型に並べることもできる。1段目が1枚—2段目が2枚—3段目が3枚—4段目が2枚—5段目が1枚の形で並べる。
- ・「ランキング」には1つの絶対の正解はない。正答を求めようとするあまり、参加者が不安になり、自由な意見や自分の考えを引っ込めることがないようにしたい。また、仕切屋さんや、意見の違いが出ないようにきれいにまとめようとする人がいると自由な議論が妨げられるので、様々な意見を自由に出し合える雰囲気づくりに留意したい。

④ 《ふりかえり》

- ・ドンゴロ人に日本の事情を理解させようとするばかりでなく、相手方の事情を理解しようとしたか？、外国人が日本で生活しようとするときに何に困るか？という視点からも考えるようにしたい。

参考

① 《外国人住民に対する苦情について》

- ・愛知県豊田市の保見団地では、全人口に対する外国人の比率が45.25%、ブラジル人の比率が42.17%（2008年5月）である。団地内の県営保見住宅では特に外国人の比率が高く、言葉や習慣の違う外国人住民とのコミュニケーションがうまくいかないために、自治会活動に問題や支障が出ているという。空き部屋が多数あるにも関わらず、入居希望者に外国人が多いため、トラブルを恐れる自治会からの要請を受けて愛知県が募集数を極端に少なくすることで事実上の入居制限をしたという問題が報告されている。
- ・保見団地では1999年に右翼団体と一部ブラジル人との衝突事件があり、問題の再発を防ぐために保見団地共生プロジェクトを発足させた。プロジェクトでは、日本人、ブラジル人の間の問題を以下のように整理した。
 - 迷惑駐車（日本人・ブラジル人ともに、緊急車両が通れない）
 - 放置車両
 - 無保険車
 - 車の転売
 - ゴミだしマナーが守られない（日本人・ブラジル人ともに）
 - 騒音
 - 迷惑事件
 - 若者がブラブラしている（日本人・ブラジル人両住民に不安感を与える）
 - 自治会未加入者の増加（日本人・ブラジル人ともに）
 - 自治会活動への不参加（日本人・ブラジル人ともに）
 - 屋台トラックがじゃま
 - 屋台トラックがブラジル人の溜まり場になっている
 - 無許可営業（保健所の無許可、場所の無断使用）
 - ブラジル人が集団でいると怖い
 - 一部のブラジル人の悪い部分を見て、全てのブラジル人を悪いと思う
 - 日本人は冷たいと感じる（ブラジル人）
 - 日本人と交流することに無関心（ブラジル人）

（三重大学HPより <http://www.mie-u.ac.jp/chiiki/multi-cul/sub3sub4-1.htm>）

外国人児童、生徒の不就学率

- ## 外国人学校の法的位置づけ

- (参考『外国人学校』朴三石著、中公新書、2008年)

- ・外国人→「不法」滞在者→犯罪→治安の悪化 という単純な図式が、たむろす外国人の若者などを目にとると頭に浮かびがちだ。「世界一安全な国日本の治安が悪化している」という主張をする新聞、週刊誌、TV番組がよくあるが、落ち着いて事態をよく見る必要がある。
- ・日本全体の一般刑法犯に占める来日外国人の割合は2007年で2.1%、最近10年間の割合は2%前後であり変化はない。凶悪犯に占める来日外国人の割合は2007年で4.4%、近年では5%台からむしろ減少している。非正規滞在者の割合は全体の1.0%だという。「不法滞在者の増加で治安が悪化した」というのは「イメージ」である。

③ 《総会での発言2について》

- ・子どもの頃から家庭生活や社会生活の中で身につけてきた文化は、人のアイデンティティーでもあり、簡単には変えられない。特に毎日の営みである食生活は肉体的にも精神的にも一日の生活を支えるものであり、非常に重要な要素である。
- ・外国で生活したことがある日本人の中には、「味噌汁が臭い」「ふとんをたたくな」と苦情を言われた経験を持つ人もいると聞くと、私たちがそうに言われたら、と考えてみるとよいのではないかと。

- ・自治会の会合や夏の盆踊りに参加しないのは、知らされていない、情報を読めない、会合に出て日本語の議論では内容がさっぱりわからない、踊りがわからないから踊れない、楽しめない、一人では参加しにくい、仕事などの都合で参加できない などの理由が考えられる。外国に行った自分が、言葉も何もわからずにその国の人々の集団の中に入っていられるかどうか。多数派はとかく、少数派がどのように感じるかについて鈍感である。

参 考

- ・神奈川県横浜市と大和市にまたがるいちょう団地で2000年から共生のまちづくりに取り組んでいるNPO「多文化まちづくり工房」の早川代表は、外国人住民の自治会参加は今でも難しい問題だという。いちょう団地では、日本人高齢者世帯と外国人若年家族世帯という住民構成になってきており、言葉や習慣の違いだけでなく、生活スタイルや生活上のニーズが合わないという問題、いわば世代間ギャップのようなものも存在するのだという。
- ・2006年の浜松市の調査では、南米系住民の地域行事への参加率は27.7%、自治会への参加率は7.4%だったという。一方、自治会への参加率そのものが、多くの自治会で近年では50%台から80%程度となっており、自治会参加率の低下は外国人住民だけの問題でなく、実は、日本人住民の問題でもあることを知っておく必要がある。

⑤ 《総会での発言4について》

- ・「ニッケイ（日系）新聞」は、群馬県大泉町の状況について、2002年11月22日の記事で次のように報じている。
 - 一 車で三十分以内の範囲にある、太田、足利、伊勢崎などの周辺都市に次々オープンする大規模商業施設は、人口四万人しかない大泉の地元商店の客を奪い続け、その結果、閉店する地元小資本は後を絶たない。
 この傾向は、九十年代から継続しており、その店の後をブラジル人が借りて、にぎやかに新商店を開店する姿を、地元商人たちは忸怩たる思いで眺めてきた。
 地元新聞の日本人記者はいう。「大泉の日本人商店経営者に取材に行っても、誰もブラジル人のことに触れたがらない雰囲気がある。」沈黙した嫌悪感、商売上の嫉妬、いろいろな心理がブラジル人コミュニティをとりまいている。
 事実、二〇〇一年四月の大泉町長選挙前には「いまや大泉はブラジルの植民地である」という反外国人派文章が、新人候補を支持するある日本人商店のホームページに掲示され、ブラジル人コミュニティに衝撃を与えた。

⑥ 《解決案について》

- ・外国人の関心は、コミュニティにおける生活のあり方よりも、日本で生活し続けていくためにどうしたらよいかというもっと差し迫った点が先のようなのである。産業雇用安定センターの調査(2002年)では、南米からの日系外国人労働者の苦情上位15項目は以下の通りである。
 - 1 差別感
 - 2 労働時間
 - 3 教育、日本語学習
 - 4 失業保険
 - 5 税金
 - 6 解雇、退職
 - 7 医療問題
 - 8 身元保証人関係
 - 9 雇用契約違反
 - 10 宿舍、住宅
 - 11 労働災害
 - 12 諸手続きや各機関との交渉
 - 13 社会保険の加入
 - 14 人の問題
 - 15 在留資格手続き

(独立行政法人労働政策研究・研修機構HPより)

http://www.jil.go.jp/foreign/jihou/2003_11/brazil_01.htm

⑦ 《実際の取り組み例》

- ・NHKの「地域発！どうするにっぽん 外国人力で地域再生」（2008年5月放送）では、13,000人のブラジル人が住む愛知県豊橋市の例が紹介された。ラジオ日系では、音楽放送の合間に日本で暮らすためのルールを繰り返し放送しているという。

参 考

- ・住民の4割がブラジル人という岩屋住宅では、ごみのポイ捨て問題が子どもたちの交流活動をきっかけにして、よい方向に向かっているようだ。交流活動中にゴミを捨てたブラジル人の子どもが日本人の子どもから怒られたことがきっかけになって、両者共同で団地内に設置するゴミ箱作りをした。子どもたちの取組みを見て大人たちの意識が少しずつ変わり、共同清掃へのブラジル人の参加者が増えたという。
- ・この機をとらえて、日本人住民とブラジル人住民との意見交換会が行われた。「夜に集まる場所がほしい」というブラジル人住民の声にこたえて、公民館の開放を検討するという自治会長の言葉が紹介された。自治会長が「まず話合いだね、話合いながら一歩ずつだよ」と笑顔で語っている様子が印象的である。

⑧ 《2008年経済危機後の日系人の現状》

- ・日本経済新聞（2009年5月25日）では次のように報じている。（抜粋）
 - ― 愛知県豊田市の「保見団地」。住民約1万人のうち、日系ブラジル人など外国人が約4000人を締める。自動車関連企業が集積する県東部にあり、活気に満ちていた団地は、経済危機が深刻化した昨秋以降、風景が一変。職を失い、家賃を払えずに退去せざるを得ない人も相次ぐ。

住民の一人、日系ブラジル人3世のマツモト・ルイス・エルナンドさん（45）は自動車部品工場などで働いてきたが、妻（46）、娘（21）とともに一家全員が失業。4月から始まった国の帰国支援事業による帰国も考えた。

しかし、すでに日本に生活基盤を築いており、ブラジルも経済状況は厳しい。仕事が見つかったとしても賃金水準は日本より格段に低いともいう。「娘も地元の中学校を出た。家族全員、日本には愛着がある」と話すフェルナンドさんは結局、申請を見送った。

「早くまた働きたい」と臨むが、豊田市の「ハローワーク豊田」が今年1月～3月に受け付けた外国人求職者のうち仕事に就けたのはわずか4%。5月には行っても状況は変わらない。

厚生労働省によると、4月から5月7日までに**帰国支援事業**を申請した人は全国で1300人いるが、ためらう人も少なくない。利用すれば日系人としての在留資格で再入国することを「当分の間、認めない」という条件が大きな理由とされる。

- ・**帰国支援事業**

失業した日系外国人の雇用対策の一環として2009年4月に国が導入した。希望者に対して一人あたり30万円、扶養家族には一人あたり20万円の旅費を支給する。支援を受けて帰国すると、「当分の間」（原則3年）は日系人としての在留資格での再入国が制限される。

- ・DIAMOND online の News & Analysis 第69回「大不況下の東海地方で急増するブラジル人失業者の“悲痛な叫び”」には、多くの日系人のナマの声を元にしたレポートが載せられている。（<http://diamond.jp/series/analysis/10069/>）
- ・こうした状況下で、ブラジル人学校では授業料を支払えずに学校をやめる子どもが急増し、その結果、多くの学校で生徒数が半減、存続の危機に直面する学校も多いという。

（参考：YOMIURI ONLINE「ブラジル人学校の危機」

http://www.yomiuri.co.jp/zoomup/zo_090318_01.htm）

事 情 解 説 シ ー ト

あなたは、湘南ゆめが丘団地の自治会役員です。

10年ほど前から周辺の工場で働く外国人住民が団地内に増えてきました。現在では全住民の40%を超えており、その大半はドンゴロ人だと言われています。ドンゴロ国から食品加工業の出稼ぎに来る人が急増しており、全国のドンゴロ人居住者は10万人に達しています。ドンゴロ国は食品加工分野での出稼ぎ労働の歴史が長く、ドンゴロ国内の訓練制度も整っていることから、日本国内での食品製造を増やしたい日本と政府間協定を結び、労働力の移入を優遇されることになったのです。

あなたの隣の家にもドンゴロ国から来たムユユさん一家が住んでいます。毎日ドンゴロ語の会話がよく聞こえてきます。学校に通う子どもたちは日本語をある程度話すことができるようですが、ムユユさん夫婦は日本語があまりわからない様子です。声をかけづらく、どんな人なのかもよくわかりません。

先月の自治会総会では、参加者は例年のように日本人ばかりでした。話し合いの中で、ドンゴロ人住民に関する発言がいろいろと出ました。今夜の自治会役員会では、この問題への対策を話し合うことになっています。

*自治会とは、住民が交替で役員を務め、よりよい生活環境作りに取り組む組織です。生活ルール決定、住民間の問題や区域内の問題の解決、交流行事、子ども会活動、防犯活動、自治体からの情報伝達などを行います。

総会でのドンゴロ人住民に関する発言

発言1：学校に行かない子どもがいたり、若者が日中ぶらぶらしたりして困るのよ。

発言2：バルコニーで魚の漬物を作る人がいて、臭いがすごいんです。

発言3：子ども会や大掃除に出て来ないし、夏の盆踊りにも来なかったよ。住民としての自覚がないね。話し合おうにも、顔さえ出さないのではどうにもならんよ。

発言4：最近はなじみの店が減り、ドンゴロ人向けの店が増えています。食品や日用品の買い物に皆さんもお困りではありませんか？年をとるとわざわざ遠くまで行くのは大変でしょう。昔からの住民には住みにくくなりましたよ。だからって、住み慣れたこの団地を出て行くことはできないし…。

ムユユさんへのインタビュー

自治会役員もドンゴロ人住民とはほとんど話したこともないし、どのような背景から総会での発言が出されたのかもよくわかりません。そこで、外国人支援団体に活動する加藤さんのつてで通訳をお願いし、ムユユさんに日本人住民の発言を紹介した上で、ムユユ一家に生活の現状を話してもらうことにしました。インタビューの記録です。

ムユユ： 日本に来て2年です。日本語よくわからないから、毎日不安です。

子ども： 学校の先生が言っていることがよくわからない。宿題もわかんないからできない。パパ、ママは日本語を読めないから、教えてもらえない。この前、お弁当の中身がヘンだって笑われたから、もう持って行きたくない。

母 親： 買い弁はお金かかるからダメよ。

子ども： 「イロハ食品（ドンゴロ人が多く働く弁当工場）で働くのは貧乏人だ」って言われた友達がいる。学校に行ってもあまりおもしろくないな。

母 親： どうしたら高校に行けるのかわからないです。試験が難しそう。働かせてもいいと思ってます。高校に行かない知り合いの子どもが多いです。

ムユユ： ドンゴロに自治会はないし、日本語の話し合いではわかりません。土曜は仕事だし。休めばラインの仲間に迷惑かけるし、クビになります。

母 親： 最近また、日本人の店がやめたあとにドンゴロの店ができました。便利です。日本の人はショッピングセンターに車で出かけてますよ。

ムユユ： 魚のつけものはドンゴロの食事の大切なおかず。食べないと元気でません。ドンゴロ人はみな家で作ります。ふたをしているし、臭くはないと思いますが。

「みんなのゆめが丘」シート3

日本人住民の発言について考えてみよう

発言1 「学校に行かない子どもがいたり、若者が日中ぶらぶらしたり」しているのは、どうしてだろう？

発言2 「すごい臭いがする魚の漬物」を作るのはどうしてだろう？

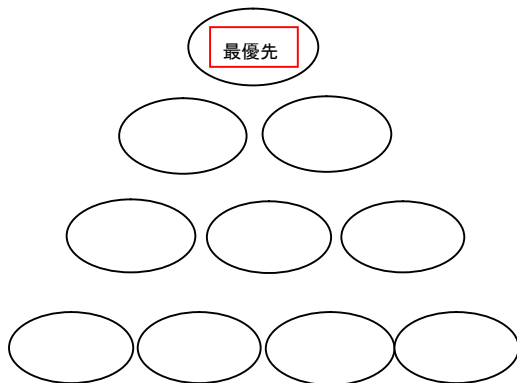
発言3 「子ども会や大掃除に出てこないし、夏の盆踊りにも参加しなかった」のはどうしてだろう？

発言4 日本人の店が減るのはどうしてだろうか？

ゆめが丘自治会・10の解決案

湘南ゆめが丘団地の自治会役員会では、総会での発言を受けて話し合いを開きました。話し合いは難航しましたが、役員の中には外国人支援団体で活動する加藤さんもいて、ドンゴロ人が日本に働きに来ているいきさつ、外国人が日本社会の事情に合わせて「ふつうに」生活することの難しさについて丁寧に説明しました。その結果、最終的には話し合いを進めていこうということになり、10の解決案が出されました。あなたはどれに優先して取り組むべきだと思いますか？下のようにピラミッド型にカードを並べ、1段目、2段目に置くカードを決め、その理由を考えて下さい。

- A 外国人の入居制限をする
- B ドンゴロ人の子どもたちがドンゴロ語で学ぶ機会を保障するよう、教育委員会に働きかける
- C 日本語を教えるボランティアを募集する
- D 強烈な臭いのものをバルコニーに置かないよう、自治会で申し合わせる
- E 加藤さんが活動する外国人支援団体の力を借りて、ドンゴロ人との交流プログラムを計画する。
- F 団地内の回覧板、連絡、掲示、看板などにドンゴロ語も表示する
- G 市役所に自治会へのドンゴロ語通訳ボランティアの派遣を要請する
- H 入居時に自治会の活動について説明し、役割分担を守らない場合には自治会から申し入れをする
- I 商店街に日本、ドンゴロ両方の商品を置いてもらうよう依頼する
- J 警察に団地内のパトロール強化を依頼する



<メモ欄>

- ① 最優先にしたものは何で、その理由は何ですか？
 - ・ 選んだカード：
 - ・ 理由：
- ② 2段目に選んだものは何で、その理由は何ですか？
 - ・ 選んだカード：
 - ・ 理由：

「みんなのゆめが丘」シート5

ふりかえりシート

1. あなたの班で解決案をランキングするときに、特に気を配ったことや、議論になったことは何ですか？
2. 「10の解決案」のうち、あなた自身やあなたの班のメンバーが「あまりやりたくない」と思ったものがありますか？またその理由は何ですか？
3. あなた自身やあなたの班が、「10の解決案」以外に必要だと考えた解決策がありますか？
4. このストーリーは、外国人居住者の多い団地で実際に起こっていることを元にして作りました。あなたはこのようなことが起こる状況を「仕方ない」と思いますか、「改善したい」と思いますか？また、それはなぜでしょうか？

作成メモ～080605

- バングラデシュ人への苦情問題という設定（「隣のヌルルさん」）は現実的でない。現在はイスラム圏からの単純労働者の入国は厳しく制限されているし、来日する人はたいてい英語ができるので、情報不足から問題が起きるという状況にはない。むしろ、現在では、外国人の集住によって問題が発生するケースの方が典型的ではないか。

作成メモ～081004

- 自治会役員になって考えるという設定が高校生に無理がないかどうか？
- 「ブラジル人」と特定すると言葉が一人歩きする場合があるので慎重にする必要がある。
- 具体的でシビアな現実をつきつけないと「きれい事」になる。この現実を知ることによって、日本人が気付く、変わるということを目指した教材化が大切である。
- 外国社会における日本人に対する苦情と比較してみると、実感としてわかるのではないか？
例 味噌汁の匂いが臭い / 庭に布団を干していることを変な目で見られた
- 高校生に何ができるのかをふりかえり考えてもらいたい
- 発言1～4の対策（ブレインストーミング）

1に関して	・お祭りでブラジルの歌を ・学校に行かない子どもたちに声かけ ・子どもたちの問題を話し合う会合	・教育委員会に教育の保障を働きかける ・ともだちになる ・ブラジル人の子どもたちへの補習
2に関して	・駐車スペースを作る ・バーベキュー場を作る	・ルールを多言語で書く ・役員が外国語を習い、伝えられるように
3に関して	・回覧板を多言語化する ・外国人に関わりのある議題を入れる ・一カ国一代表制にする	・自治会の話合いに通訳をつける ・自治会の会合に誘って行く ・ブラジル人を役員に入れる
4に関して	・ブラジル料理パーティーを開く ・文化交流コーディネーターの導入	・ブラジル人の店に日本の食材を置いてもらう ・ブラジリアン・タウンとして売り出す

作成メモ～081106（及びMLで）

- 状況設定の苦情発言の内容が偏見に満ちており、事実なのか、印象なのかを学習者が判断できない可能性が高い。ここから出発しても共生的な思考態度にはならない。背景解説が必要だ。
- 解決すべき本当の課題が何かを考えさせる必要がある。
- 日本人の立場でだけ考えることから、ブラジル人の立場を意識するようになる転換点が必要。
- よい面が取り上げられるような設定、よい面を考えさせるような教材にできないだろうか。
- 当事者が不愉快になるような実名の教材設定はいかがなものか？架空の設定が好ましい。
- どんな教材であっても、ファシリテータは参加者の中に当事者がいる可能性を意識して使う必要がある。誰がどのように扱っても問題が起らない教材ではおもしろみに欠ける。

作成メモ～081218

- 実際の新聞記事やニュース等の「ナマの情報」そのものを素材としない限り抵抗感が生まれる。
- ナマの情報にはタイミングがある。実際に使う人が選択する必要がある。
- 設定に依然として問題がある。多数派の発言しか提示していないからである。少数派の発言も与え、そこから学習者が少数派の立場や事情に気付く過程が必要だ。教えるのでなく。
- 事実そのものであるならよいが、創作であるなら、客観的な表現が必要。「治安が悪化」等の誇張や論理の飛躍、偏見を助長する危険性のある表現は避けるべきだ。
- 苦情発言について考える過程は正しい答えを出すためでなく、公正な議論の入り口になればよい。
- 設定の架空国の名前（カリメア）には、実在の国のイメージがつきまとうので変えたほうがよい。

作成メモ～0905

- 10の対策が総会での発言に対応していない。
- 状況設定の読み取りシートの分量が多すぎる。インタビューは家族を登場させ、内容は簡潔に